

二本松実業高等学校生徒との座談会

主催：(一社)福島県建設業協会

福島県建設業協会では、建設関係学科に進学した生徒を対象に、将来の建設業界への就職に備え、進路希望者の不安解消や理解の増進を図ることにより、雇用のミスマッチの解消や建設業への進路選択者を増加させることを目的に、生徒との座談会を開催しております。

二本松実業高等学校では、都市システム科2年生と座談会を行い、座学としてICT活用の現状・課題や新社会人に求められる資質などを学びました。また、地元建設企業等の方をアドバイザーとして招き、建設業の仕事のやりがいや魅力などを講話いただき、生徒が抱える建設業への就職に対する不安や疑問について意見交換を行いました。

＜日 時＞ 令和7年2月26日(水) 9:50～11:40
＜場 所＞ 福島県立二本松実業高等学校 第一会議室(二本松市榎戸)
＜対象学年＞ 都市システム科 2年生 24名
＜コーディネーター＞ 森合竜司教諭、福田俊彦教諭、佐藤秀生教諭、二瓶宏斗教諭
＜アドバイザー＞ 地元建設企業2社(石橋建設工業㈱、菅野建設工業㈱)
福島県土木部建設産業室、(一社)福島県建設業協会

座学1「人材育成の取組みについて」

講師：(一社)福島県建設業協会 事務局長 齋藤 淳 氏

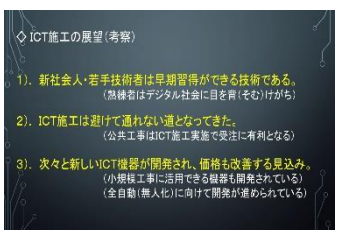
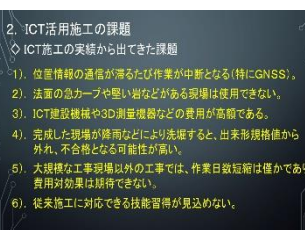
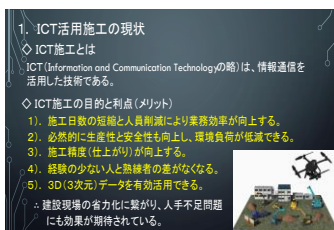


終わりに

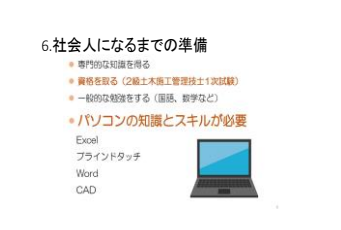
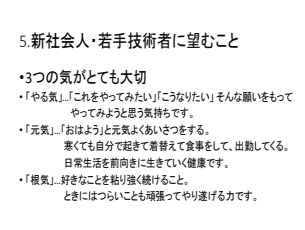
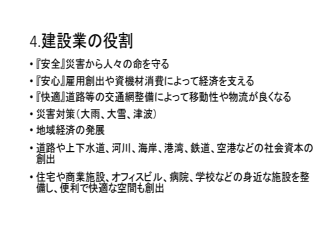
建設産業は、地域の安全・安心を守るエッセンシャルワーカーとして、働きやすい職場環境の整備にも取り組みながら、未来に夢と希望をつないでまいります。

座学2「建設業への就職に向けて」

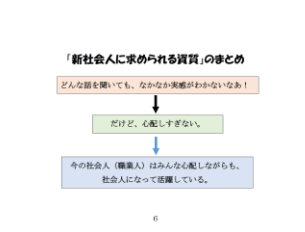
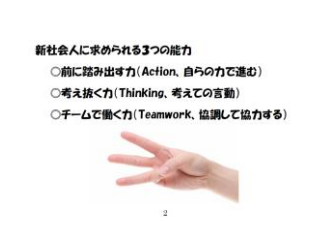
① ICT活用の現状と課題、今後の展望 … 講師：菅野建設工業㈱ 土木本部土木部長 石川清徳 氏



② 建設業を担う若手技術者に望むこと … 講師：石橋建設工業㈱ 土木部長 渡邊政宏 氏



③ 新社会人に求められる資質 … 講師：石橋建設工業㈱ 常務取締役 安部芳則 氏



座談会「意見交換」

事前に行った就職意向調査の集計結果を基に、生徒が就職する上で特に興味・関心を持っている項目に対して、建設業の現状をお伝えし、意見交換を行いました。主な意見は次のとおり。

Q 1 給料が高いイメージは本当か

A 1 当社の高校卒業の初任給は基本給で 23 万円ほど、さらに資格手当がある。2 級土木施工管理技士を取得すると、毎月 3 千円、年間で 3 万 6 千円のプラスになる。

Q 2 休みが少ないイメージは本当か

A 2 当社は年間 110 日程度の休日が確保されていて、日曜日や年末年始、お盆の時期は休みになる。また、年間休日以外に有給休暇がある。土曜日や祝日は基本的に休みが多いが、災害対応などで休日出勤となった場合は、振替で休みを取ることができる。また、年間の休日以外に有給休暇がある。

Q 3 建設業の変ぼうと将来性

A 3 ICT を活用し始めたばかりなので、人の手がいらなくなる事はない。また、ICT 技術の進化により、将来はもっと効率的に仕事ができるようになる。インフラ整備や震災などの大きな災害があるので、建設業は必要不可欠。

ワークショップ 「建設業イメージアップのためのキャッチコピー作成」

1 班：「地図のってみた」（理由：構造物が出来上がると地図に残るため、建設業のやりがいを PR）

2 班：「建設業があれば国はよくなる」（理由：道路や橋など建設業が私たちの町のインフラを支えている）

3 班：「組みたてよう 新たな 3K にむけて」（理由：給与が高い、休暇がとれる、希望がある、を私たちが担っていくという意気込み）

4 班：「みんなで増やそう 明日の笑顔」（理由：インフラが整備されるとみんなが笑顔になること）

<座談会・ワークショップの様子>



<生徒からの感想>

建設業は危険な仕事だと思っていたが、ICT 技術を取り入れることによって以前よりも危険な作業が少なくなっていることを知り、イメージが変わった。また、どの企業の方も自分の仕事に自信を持って働いていることが伝わり、興味関心が湧いた。

<佐藤科長からの講評>

建設業の仕事に対して不安や疑問を抱えていたと思うが、この座談会を通して解消することができたのではないかと。キャッチコピーを作成する中で、企業や団体の方と意見交換しながら一つの物を作り上げたという過程を経験することができてよかったと思う。これからの進路選択に向けて、建設業に進んでくれる生徒が一人でも多く増えることを願っている。

